

■-----

IAP、IAC、IAMP 三機関の共同議長によるコミュニケ（共同発表）—  
ポスト 2015 年国連目標の実行段階における新たなグローバル・パートナー  
シップについて（ご案内）

-----■

この度、日本学術会議が加盟する国際団体である IAP 及び IAC の共同議長から以下のコミュニケが届きましたので皆様にご案内申し上げます。

2013 年 7 月 15 日に公表された本コミュニケは、ポスト 2015 年開発目標に関して、3 つの国際学術団体の共同議長 6 名が連名で、科学者及び科学アカデミーの役割を再確認し、国際学術団体も貢献する用意がある旨を発表する内容となっています。その概略は以下のとおりです。

2013 年 5 月に国連事務総長に対して提出されたハイレベル・パネル（潘基文事務総長が任命した 27 名の専門家）による報告書「新たなグローバル・パートナーシップ：持続可能な開発を通じ、貧困の根絶と経済の変革を」について謝辞を述べたい。我々は、持続可能な開発の達成には、変革の力をもった転換が極めて重要だというレポートの内容を支援する。

世界の科学アカデミーにより 2013 年 2 月にリオデジャネイロで開催された国際カンファレンスにおいてもポスト 2015 年目標プロセスにおける科学者コミュニティの重要な役割が確認された。

IAP、IAC、IAMP は一丸となって、2013 年 9 月に開催予定のポスト 2015 アジェンダを議論する国連総会特別セッションに対して、加盟各国の科学アカデミーや医学アカデミーに加え、地域ネットワークを駆使し、世界トップレベルの専門家を提供し、科学や医学に関する提言を発出するという形で貢献する用意がある。

特に、前述のハイレベル・パネルによる報告書で言及された 4 つの観点に対して（3 団体の貢献分野として）呼応しておきたい。

（1） 開発関係のデータのためのグローバル・パートナーシップを通じ、持続可能な開発のため、新たに「根拠に基づく（データ）」（の収集・分析・利用）を促進・実行し、政治や経済のバイアスとは 距離を置いた、科学的で独立した提言を行う。

(2) 「世界の持続可能な開発に関するアウトルック (レポート)」が、最新の科学・

医療・技術・イノベーションの成果を考慮し、適切な査読プロセスなどを経た上で作成されるようにする。

(3) ゴール/目標 4a 及び 4c、すなわち「回避可能な 5 歳未満の乳幼児死亡に終止符を打つ」及び「妊婦死亡率を低下させる」に加え、ゴール/目標 4e すなわち「HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病、及び、重点項目としての非感染症疾患の負荷軽減」を達成する。

(4) ゴール/目標 12f、すなわち「科学・技術・イノベーション、及び開発に関するデータに関する協力体制の推進及びアクセスの促進」を達成する。

報告書『新たなグローバル・パートナーシップ：持続可能な開発を通じ、貧困の撲滅と経済の変革を (A New Global Partnership: Eradicate Poverty and Transform Economies through Sustainable Development)』の英語原本は国連のホームページでご覧いただくことができます

([http://www.un.org/sg/management/pdf/HLP\\_P2015\\_Report.pdf](http://www.un.org/sg/management/pdf/HLP_P2015_Report.pdf))。

報告書の概要やハイライト等は、国際連合広報センターのホームページでご覧いただくことができます (<http://www.unic.or.jp/unic/highlight/3061/>)。

本コミュニケの英語本文は、IAP 及び IAC のホームページにてご覧いただけます。

IAP: <http://www.interacademies.net/News/21976.aspx>

IAC: <http://www.interacademycouncil.net/24770/28527.aspx>

日本学術会議事務局

国際業務担当室

佐藤・中村・清田・藤木 (恵)

(グループメール: [i253@scj.go.jp](mailto:i253@scj.go.jp))